国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

NEXCO 中日本

平成27年５月27日（水）
国土交通省
中日本高速道路株式会社

記者発表資料

今年3月に全線開通した「さがみ縦貫道路」の整備によるストック効果をお知らせいたします。

（平成26年6月28日、相模原愛川～高尾山（延長14.8km）開通、
平成27年3月8日、寒川北～海老名JCT　（延長 4.3km）開通により、34kmが全線開通）

＜主なストック整備効果＞

神奈川県内の南北移動が円滑化しました（時間地図の歪みが改善）

行きにくかった南北の所要時間が改善　相模原から茅ヶ崎まで83分→48分

周辺の一般道（国道129号、16号等）の渋滞が改善しています（混雑区間が減少）

混雑時10km/h以下区間が解消し、20km/h以下区間が25％減少

⬇

相模原市などで、民間投資、企業立地が進み、新たな雇用が生まれています

相模原市の新規求人数が約3割増加　　沿線メーカーの物流も効率化

神奈川から奥多摩へ、群馬から箱根へ、新しい観光交流が進んでいます

奥多摩湖では、神奈川県からの来訪が約2.4倍に増加

開通を契機に、新たな周遊バスツアーが販売（新潟発、鎌倉・箱根・富士山周遊ツアー等）

「さがみ縦貫道路」は、圏央道として、首都圏3環状道路を構成します。
6月7日に圏央道（神崎～大栄）（延長9.7km）が開通すれば、圏央道の約8割が開通することになります。

発表記者クラブ

国土交通省記者会　国土交通省建設専門紙記者会　国土交通省交通運輸記者会
竹芝記者クラブ　神奈川建設記者会　都庁記者クラブ　神奈川県政記者クラブ
千葉県政記者クラブ　茨城県政記者クラブ　八王子記者クラブ　立川市政記者クラブ
青梅・西多摩記者クラブ　横浜市政記者会　横浜ラジオ・テレビ記者会　相模原記者クラブ

お問い合わせ先

［相模原愛川ＩＣ～高尾山ＩＣ］
国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所　　電話　042-643-2001（代表）
副所長　石浜　康賢（いしはま　やすまさ）　計画課長　大嶋　精一（おおしま　せいいち）

［寒川北ＩＣ～海老名ＪＣＴ］
国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所　　電話　045-311-2981（代表）
副所長　佐藤　重孝（さとう　しげたか）　調査課長　藤平　忠晴（ふじひら　ただはる）

［相模原愛川ＩＣ～高尾山ＩＣ］［寒川北ＩＣ～海老名ＪＣＴ］
中日本高速道路株式会社　東京支社　広報・CSチーム　電話　03-5776-5257（マスコミ専用）

圏央道の整備前後における沿線地域の変化

時間距離の短縮（神奈川県の時間地図の南北の歪みが改善）

○ 地理的距離に比べて長く延びていた南北方向の時間距離が、さがみ縦貫道路開通により短縮。

■整備前（約20年前）

■圏央道開通後（県内全線開通）

○分 20年前の所要時間
○分 今回整備後の所要時間
○分 将来整備後の所要時間

所要時間は、県道以上を利用した場合の最短時間経路。
整備前はH6センサスの混雑時旅行速度、全線開通後はH22センサスの混雑時旅行速度（圏央道は設計速度）を用いて算出。

並行する一般道で、渋滞区間 解消　混雑区間の延長 25%減小

○ さがみ縦貫道路に並行する一般道（国道129号、国道16号、国道412号、国道467号、県道46号相模原茅ヶ崎線）では、渋滞区間が解消、混雑区間の延長が25%減少。

旅行速度：H6道路交通センサスの混雑時旅行速度（平日）、
道路プローブデータ（平成27年4月1日（水）～4月7日（火）の混雑時旅行速度（平日）

厚木市文化会館付近の交通状況

さがみ縦貫道路（圏央道）全線開通までの経緯

● さがみ縦貫道路は、横浜湘南道路や高速横浜環状南線とともに圏央道の神奈川県区間を構成する自動車専用道路で、神奈川県における南北方向の大動脈を形成します。

● 平成22年2月に海老名JCT～海老名ICの区間が最初に開通し、順次延伸してきました。平成27年3月8日の寒川北IC～海老名JCTの開通により、さがみ縦貫道路は全線開通しました。

●さがみ縦貫道路（圏央道）　延長：約34.0km
区間：神奈川県茅ヶ崎市西久保（茅ヶ崎JCT）～神奈川県相模原市緑区川尻（都県境）

■さがみ縦貫道路の歴史

昭和63年度	さがみ縦貫道路の区間で初めて事業に着手（茅ヶ崎JCT～東名高速道路）
平成6年6月	都市計画決定（茅ヶ崎JCT～相模原愛川IC）
平成9年5月	起工式（茅ヶ崎JCT～相模原愛川IC）
平成9年6月	都市計画決定（相模原愛川IC～都県境）
平成22年2月	海老名JCT～海老名IC間開通
平成25年3月	海老名IC～相模原愛川IC間開通
平成25年4月	茅ヶ崎JCT～寒川北IC間開通
平成26年6月	相模原愛川IC～高尾山IC間開通
平成27年3月	寒川北IC～海老名JCT間開通

■沿線の主なできごと

- 平成7年
  神奈川県総合防災センターができる
- 平成16年10月
  神奈川県において「インベスト神奈川」策定
  ※神奈川県の「インベスト神奈川」とは、企業立地を積極的に支援（低利融資、減税措置等）する制度。
- 平成21年
  神奈川県の人口が900万人を超える
- 平成22年
  相模原市が政令指定都市になる
- 平成25年2月
  「さがみロボット産業特区」指定
  ※神奈川県は、圏央道の全面開通を控え、さがみ縦貫道路沿線自治体にロボット関連産業を集め、新たな産業集積地域を目指し、地域活性化総合特区「さがみロボット産業特区」の取組をスタート。
- 平成26年5月
  「かながわシープロジェクト」発足
  ※2020年の東京オリンピック開催や2014年度完成予定のさがみ縦貫道路の全面開通を控え、神奈川の「海」の魅力を世界に向けて発信する神奈川県のプロジェクト。

■累計開通延長（km）

『さがみ縦貫道路』
全線開通！！

＜目次＞

［相模原愛川ＩＣ～高尾山ＩＣ（平成26年6月28日開通）］

～経済のみち～ 民需の拡大と雇用の創出、企業活動の活性化	効果①：圏央道開通により、相模原市では物流施設や工場が立地するなど民間投資が促進し、相模原市内の新規求人数が平成23年より約３割増加。新たな雇用を創出。（P5） 効果②：埼玉方面や山梨方面への移動時間が短縮し、企業活動の効率化に貢献。（P6）
～歴史・文化のみち～ 地域経済の好循環 （広域的な観光交流の拡大）	効果③：埼玉・栃木・群馬方面から箱根の各種施設への観光客が増えたとの声。小田原厚木道路では、群馬県からの来訪者が1.5倍に増加。（P7） 効果④：神奈川県と奥多摩方面のアクセス向上により、神奈川県から奥多摩湖への来訪者が約2.4倍に増加。（P8）
～暮らしのみち～ 並行する国道16号の混雑緩和	効果⑤：圏央道に並行する国道16号では、朝夕の交通量が約8%減少。（P9） 効果⑥：都心経由の広域交通が規格の高い圏央道に転換。（P10）
～命のみち～ 災害時の支援ルートの確保	効果⑦：今回の開通により、新たな高速道路ネットワークを形成。災害時の円滑な物資輸送や救援活動の支援ルートとして期待。（P11）

（参考①）相模原愛川IC～高尾山IC　開通後の交通状況（高速道路）（P12）
（参考②）相模原愛川IC～高尾山IC　開通後の交通状況（一般道）（P13）

［寒川北ＩＣ～海老名ＪＣＴ（平成27年3月8日開通）］

～経済のみち～ 国際競争力と成長 （民需の拡大）	効果①：配送時間の短縮により、新鮮な野菜を朝一番に、確実に配達出来るようになったとの実感の声。 埼玉県方面など、新たなエリアへの営業展開の検討が可能に。（P14）
～歴史・文化のみち～ 地域経済の好循環 （広域的な観光交流の拡大）	効果②：開通を機に企画された「新潟発」バスツアーは申込みが好調、満席の日もある状況。 開通区間に近接する寒川神社、わいわい市ともに順調。わいわい市の入込客数は12%増加。（P15）
～暮らしのみち～ 地域の交通状況の改善	効果③：開通区間に並行する一般道では交通量が減少し、所要時間が短縮。 開通区間に並行する細街路では、抜け道利用の大型車交通量が減少。（P16）

（参考①）寒川北IC～海老名JCT　開通後の交通状況（高速道路）（P17）
（参考②）寒川北IC～海老名JCT　開通後の交通状況（一般道）（P18）

整備効果①：民需の拡大と雇用の創出

・相模原市内では物流施設や工場が立地するなど、民間投資が促進。
・新規求人数は平成23年より約３割増加し、新たな雇用を創出。

■神奈川県内の企業立地の状況

■相模原市の声

企業の新規立地の問い合わせは、平成25年8月後半から件数が増え、現在は大規模な投資の相談が増えている。

相模原市内に、大型の物流倉庫が複数できており、約5,000人の雇用が見込まれている。

出典：平成26年11月19日（水）、平成26年11月10日（月）ヒアリング調査結果

■相模原市内の企業立地※1（平成23年以降）の推移と新規求人数※3の推移

※グラフの企業立地数は、平成23年の立地企業数を基準とした累積

※1：企業立地は、「インベスト神奈川2ndステップ（神奈川県）」にて認定された企業（平成26年11月21日時点）と産業集積促進条例（STEP50）にて平成22年度以降に認定された企業
※2：用地情報の提供、立地に係る諸手続、人材確保育成支援、環境アセスメント相談等の各種サービスを活用した企業など
※3：神奈川労働局　神奈川労働市場月報（平成23年1月～平成26年12月）より作成した相模原市内のデータ

整備効果②：企業活動の活性化

・相模原愛川ＩＣから埼玉方面や山梨方面への**移動時間が短縮**し、時間を有効に活用できるなど**企業活動の効率化に貢献**。

■企業の声

［例１］

高尾山ICから相模原愛川ICに利用ICを変更することにより、厚木工場と東松山工場間の従業員の行き来が容易になり、片道約30分短縮し、１時間でいけるようになった。

これにより、取引先との打合せや違う取引先への訪問が可能となるなど営業活動が改善し、１日の時間を有効に活用できるようになった。（機械部品メーカー）

出典：平成26年12月22日（月）ヒアリング調査結果

［例２］

厚木事業所と山梨にある工場との従業員や機械、材料の往来が楽になった。これまで１日１往復であったが、２往復できるようになり、部品調達もしやすくなった。

下請け会社から特殊部品を調達しているが、圏央道開通により、関越や東北方面へも圏域が広がり、下請け会社を広く選べるようになった。（工作機械メーカー）

出典：平成26年12月19日（月）ヒアリング調査結果

■相模原愛川ICから埼玉・山梨方面への移動時間短縮

整備効果③：経済の好循環（広域的な観光交流の実現）

- 箱根の各種施設では、埼玉・栃木・群馬方面からの観光客が増えたとの声。
- 箱根町の観光客数が対前年比で約１割増加し、小田原厚木道路では、群馬県からの来訪者が１．５倍に増加。
- 次々つながる圏央道により、広域的な観光交流が実現し、新たな観光需要の創出に期待。

■広域的な観光交流と新たな観光需要の創出

＜小田原厚木道路の埼玉県・群馬県・栃木県のナンバー別交通量の伸び率＞

※出典：NEXCOデータ
（小田原料金所を通過する往復のETC車）
開通前：平成26年6月の休日
開通後：平成26年10月の休日

■箱根町の車両利用の入込観光客数の変化

出典：箱根町の提供データ　開通前：平成25年11月10日（日）
開通後：平成26年11月9日（日）

■観光協会（箱根町）の声

箱根の宿泊施設や入場施設では、埼玉、栃木、群馬方面からの観光客が増えたとの声があがっている。

出典：平成26年11月11日（火）ヒアリング調査結果

整備効果④：経済の好循環（広域的な観光交流の実現）

・神奈川県と奥多摩方面のアクセスが向上し、休日の所要時間が**約３割短縮**。
・圏央道沿線の奥多摩湖では、神奈川県からの来訪者が**約２．４倍に増加**。

■神奈川県と奥多摩方面のアクセス向上と奥多摩湖の来訪の変化

＜所要時間※1の変化（海老名JCT～奥多摩湖）＞

※1　出典：プローブデータ
開通前：平成25年7～10月休日の7～18時台
開通後：平成26年7～10月休日の7～18時台

＜奥多摩湖の神奈川県からの来訪者数※2の変化＞

※2　出典：国土交通省データ
（奥多摩湖駐車場における駐車台数・車籍地調査 結果による車両台数）
開通前：平成25年6月14日（土）
開通後：平成26年11月15日（土）

■観光施設の声

平成25年度は約20万人の観光入込客数だった。
ナンバープレートを見ていると、以前は埼玉方面が目立っていたが、開通後は横浜・相模ナンバーが増えたと感じている。

出典：平成26年12月18日（木）ヒアリング調査結果

整備効果⑤：並行する国道16号の朝夕の混雑緩和

- 圏央道に並行する国道１６号（左入橋～橋本五差路交差点）では、朝夕の交通量が平均**約８％減少**。
- 朝夕の余裕を見込んだ所要時間が３５分から２４分となり、**定時性が向上**。

■地域の声

- 八王子インターから八王子バイパスまでの渋滞がほとんどなくなった。
- 橋本五差路の横浜方面への渋滞がほとんどなくなった。
- 国道１６号や国道１２９号の交通量が減ったように感じる。

出典：平成26年12月アンケート調査結果

■開通区間に並行する国道16号（左入橋～橋本五差路）の朝夕の交通状況の変化

開通前：国道16号（左入橋）の朝の交通状況
写真撮影：平成26年6月3日（火）の7時台

開通後：国道16号（左入橋）の朝の交通状況
写真撮影：平成26年12月9日（火）の7時台

交通量が減少し、混雑緩和

＜国道16号の朝夕の交通量の変化＞

出典：国土交通省データ（交通量調査）
開通前：平成26年6月3日（火）の7～9、16～18時台交通量
開通後：平成26年12月9日（火）の7～9、16～18時台交通量
左入橋～橋本五差路の延長：13.0km（H22道路交通センサスより）

＜国道16号の朝夕の所要時間の定時性の変化＞

出典：プローブデータ　開通前：平成25年7～10月平日の7～9、16～18時台
開通後：平成26年7～10月平日の7～9、16～18時台

※1：90パーセントタイル所要時間

整備効果⑥　圏央道経由へ転換した交通

・都心経由の広域交通が規格の高い圏央道に転換しています。

東名高速と関越道を乗り継ぐ広域的な移動の例

圏央道の開通前は、
　〇首都高速や環状８号線など、都心経由が約９割（約2,000台/日）。

圏央道がつながったことにより
　〇圏央道が利用され、都心経由が約２割（約950台/日）に大幅に減少。

◇開通後の圏央道の交通状況

写真：圏央道（相模原愛川IC～高尾山IC）（4月2日（木）　15時撮影）

■東名高速－関越道間の乗り継ぎ交通の状況<全車>※

都心経由が約9割から約2割に減少

※経路について
- 東名高速 － 首都高 － 関越道を経由
- 東名高速 －（東京IC）－ 一般道 －（練馬IC）－ 関越道を経由
- 東名高速・圏央道 － 一般道 － 圏央道 － 関越道を経由
- 東名高速 － 圏央道 － 関越道を経由

開通前：H25.11の平日のETCログデータ
開通後：H26.10の平日のETCログデータ　より作成

整備効果⑦：災害時の支援ルートの確保

・東日本大震災時、相模原市は横浜町田ICから都心部を経由して交流都市である大船渡市等へ物資を供給。
・圏央道開通により、都心を経由しない新たな高速道路ネットワークが形成し、交流都市である佐久市等からの**災害時の円滑な物資輸送や救援活動の支援ルート**として期待。

■大規模災害発生時の支援ルート

■相模原市の声

圏央道を利用した新たな高速道路ネットワークを形成することにより、災害時の円滑な物資輸送や救急活動の支援ができるようになり、効果は大きいと考えている。

横浜市や三浦半島方面で大規模災害が発生した場合において、本市が応援できる体制が整っている場合には、国道１６号が使用できないことを想定し、複数のルートの１つとして圏央道を利用した支援ルートが期待される。

出典：平成27年3月11日（水）ヒアリング調査結果

（参考①）相模原愛川IC～高尾山IC　開通後の交通状況（高速道路）

- **圏央道の開通後６ヶ月間の日交通量は、平均34,000台。**
- **これまで開通していた隣接区間の交通量は、大幅に増加。**
  - 圏央道（圏央厚木IC～相模原愛川IC間）：19,800台→47,000台[137%増]
  - 圏央道（青梅IC～入間IC間）：38,400台→46,700台[22%増]
- **関越道・東名（圏央道内側）はやや減少、中央道（圏央道内側）はほぼ変化なし。**
  - 関越道（鶴ヶ島JCT～川越IC間）：98,600台→94,900台[4%減]
  - 東名高速（横浜町田IC～横浜青葉IC間）：114,600台→106,400台[7%減]
  - 中央道（八王子JCT～八王子IC間）：48,800台→48,600台[ほぼ変化なし]
- **関越道・東名（圏央道外側）はほぼ変化なし、中央道（圏央道外側）はやや減少。**
  - 関越道（鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間）：106,300台→105,300台[ほぼ変化なし]
  - 東名高速（秦野中井IC～厚木IC間）：99,800台→99,000台[ほぼ変化なし]
  - 中央道（相模湖東IC～八王子JCT間）：60,500台→58,300台[4%減]

①,②,③ 圏央道 ※1

①青梅IC～入間IC

②相模原愛川IC～高尾山IC

③圏央厚木IC～相模原愛川IC

⑧,⑨ 関越自動車道 ※1

⑧鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT（圏央道外側）

⑨鶴ヶ島JCT～川越IC（圏央道内側）

④,⑤ 中央自動車道 ※1

④相模湖東IC～八王子JCT（圏央道外側）

⑤八王子JCT～八王子IC（圏央道内側）

⑥,⑦ 東名高速道路 ※1

⑥秦野中井IC～厚木IC（圏央道外側）

⑦横浜町田IC～横浜青葉IC（圏央道内側）

※1 出典：NEXCOデータ
開通前：平成25年6月30日（日）～12月28日（土）の日交通量の平均値
開通後：平成26年6月29日（日）～12月27日（土）の日交通量の平均値

（参考②）相模原愛川IC～高尾山IC　開通後の交通状況（一般道）

- **開通区間に並行する八王子バイパスや国道129号の交通量は減少傾向。**
  八王子バイパス：31,000台→27,300台　［12%減］
  国道129号（田名赤坂交差点）：46,700台→45,600台　［2%減］
- **相模原愛川ＩＣ周辺（国道129号山際交差点）は交通量が増加傾向。**
  国道129号（山際交差点）：38,100台→44,300台　［16%増］

※1 出典：国土交通省データ（交通量調査）
【調査日】
開通前：平成26年6月3日（火）の日交通量
開通後：平成26年12月9日（火）の日交通量

※2 出典：NEXCOデータ
開通前：平成26年6月3日（火）の日交通量
開通後：平成26年12月9日（火）の日交通量

※3 出典：開通前：首都高データ（交通量調査）
開通後：国土交通省データ（交通量調査）
【調査日】
開通前：平成26年6月3日（火）の日交通量
開通後：平成26年12月9日（火）の日交通量

整備効果①：国際競争力と成長　～民需の拡大～

- 配送時間短縮により、新鮮な野菜を確実に朝一番の店頭に提供できるようになったとの声。
- 埼玉県方面など、新たなエリアへの営業展開の検討が可能になっています。

輸送の効率化が首都圏の生活を変える

湘南藤沢地方卸売市場職員の声

当社では市場機能を担う他、仲卸しに関しても他業者と一緒に営業展開を図っている。

さがみ縦貫道路の全線開通後、東京都あきる野市方面等への配送時間が大幅に短縮し、確実性が高まったため、取引の拡大を図っている。例えば、配送時間の短縮により集荷の時間に余裕ができたため、鮮度が重要なホウレンソウ等を、新鮮な状態のまま確実に朝一番の店頭に提供できるようになった。

また、1時間半程度で行けるようになった埼玉県東松山方面等への配送エリア展開も検討している。

出典：平成27年４月 ヒアリング調査
（横浜国道事務所調べ）

高級フレンチの食材に選ばれるブランド野菜『湘南野菜』

写真出典：湘南野菜出荷推進協議会HP

■藤沢IC～東松山IC間の所要時間の変化

出典：（開通前）平成27年1月の民間プローブデータより
（開通後）平成27年4月14日（火）実走行データ

物流企業の声（藤沢市内）

藤沢ICから圏央道を経由して埼玉県方面に行く場合、県道や国道129号経由に比べて30～40分短縮できるため、埼玉エリアを視野に入れた営業展開を検討したい。

出典：平成27年４月 ヒアリング調査
（横浜国道事務所調べ）

整備効果②：地域経済の好循環　～観光交流の拡大～

- 開通を機に企画された「新潟発」バスツアーは申込みが好調、満席の日もある状況です。
- 開通区間に近接する寒川神社、わいわい市ともに順調。わいわい市の入込客数は12%増！

圏央道の沿線各地で、次々と拡がる観光交流

出典：バスツアー案内広告より抜粋

圏央道開通による新企画！
新潟出発、富士山・箱根・鎌倉を周遊するバスツアーが好評！

埼玉県内の屋内スキー場で割引キャンペーン実施！（3月）
神奈川県、静岡県在住者を対象に割引実施。
今後もキャンペーンの展開を検討！

寒川町「わいわい市」※1の入込客数が増加！
昨年度の同時期に比べ、月間で**約12%増加（約5千人増）**！近隣にある**寒川神社**への参拝客と相まって順調に推移。

軽井沢のリゾート施設で開通記念プラン販売開始！（販売中）
夏の湘南エリアからの来客に期待！

3月8日、圏央道寒川北ICから海老名JCT間が開通。これにより湘南エリアからの所要時間は最大で80分短縮。更に近くなった軽井沢へGO！

出典：リゾート施設HPより抜粋

写真出典：JAさがみHP

桜が満開の寒川神社
（平成27年4月撮影）

出典：平成27年4月　ヒアリング調査
（横浜国道事務所調べ）

茅ヶ崎市内のイベントに※2来場者増！
昨年より3,000人多い、28,000人の来場者！
県内外から「ご当地キャラクター」が大集合し、遠方からの来場者も多数。

※1…JAさがみ　わいわい市　寒川店（JA直営の農産物直売所）
※2…「第3回ゆる～いご当地キャラパーティー！in湘南茅ヶ崎」（3/28,.3/29開催）

旅行会社の声

圏央道の開通により移動時間が短縮され観光地での滞在時間が確保できるようになったので、新潟発、富士山麓・箱根・鎌倉周遊（2日間）の新たなバスツアーを企画しました。
お客様の申し込みも非常に好調で満席の日もある状況です。

出典：平成27年4月　ヒアリング調査
（横浜国道事務所調べ）

寒川神社の声

開通後の参拝客の来訪状況は順調です。駐車場を拡大しましたが、それでも満車になるほどで、遠方から車で来る方も増えている印象です。
参拝客や地元の方から「圏央道が開通して便利になった」という声をよく聞きます。

出典：平成27年4月　ヒアリング調査
（横浜国道事務所調べ）

整備効果③：地域の交通状況の改善

- 開通区間に並行する国道１２９号の戸田交差点や県道相模原茅ヶ崎線の東河内交差点では交通量が減少し、所要時間が短縮されています。
- 開通区間に並行する細街路では、抜け道利用の大型車交通量が減少しています。

並行する一般道の交通量減少により、地域の交通状況が改善

交通量の変化

国道129号（戸田交差点）

圏央道 寒川南IC～寒川北IC※

出典：国土交通省 交通量調査データ
開通前：平成27年1月29日（木）の12時間交通量
開通後：平成27年3月24日（火）の12時間交通量
※NEXCOデータ
開通前：平成26年3月10日（月）～4月9日（水）の日交通量の平均値
開通後：平成27年3月9日（月）～4月8日（水）の日交通量の平均値

県道相模原茅ヶ崎線（東河内交差点）

開通区間に並行する一般道の所要時間の変化

国道129号経由

（東真土二丁目交差点～文化会館前交差点）

県道相模原茅ヶ崎線経由

（田端二本松交差点～海老名インター入口交差点）

出典：国土交通省
開通前：平成27年1月の民間プローブデータより
開通後：平成27年4月14日（火）実走行データ

旧田村十字交差点・社家駅入口における大型車交通量の変化

■抜け道として利用されていた細街路で大型車の交通量が減少

【旧田村十字路交差点の交通状況の変化】

開通前

写真撮影：平成27年1月29日（火）7時台

開通後

写真撮影：平成27年4月13日（月）7時台

旧田村十字路交差点（大型車交通量）

社家駅入口交差点（大型車交通量）

出典：国土交通省 交通量調査データ
開通前：平成27年1月29日（木）の12時間交通量
開通後：平成27年3月24日（火）の12時間交通量

（参考①）寒川北IC～海老名JCT　開通後の交通状況（高速道路）

● **圏央道の開通後の日交通量は、平均17,300台。**

● **これまで開通していた隣接区間及び新湘南バイパスの交通量は対前年同週比較で、大幅に増加。**

圏央道（寒川南ＩＣ～寒川北ＩＣ間）：3,000台→15,000台[400%増]
（茅ヶ崎中央ＩＣ～藤沢ＩＣ間）：24,300台→26,600台[9%増]
新湘南バイパス（茅ヶ崎西ＩＣ～茅ヶ崎海岸ＩＣ間）：9,600台→11,300台[18%増]

●**放射方向の高速道路では、圏央道外側・内側ともに対前年同週比較で、大きな変化なし。**

関越道（鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間）：108,700台→106,200台[2%減]
（鶴ヶ島JCT～川越ＩＣ間）：100,000台→95,800台[4%減]
中央道（相模湖東IC～八王子JCT間）：55,800台→53,500台[4%減]
（八王子JCT～八王子ＩＣ間）：44,900台→46,000台[2%増]
東名高速（秦野中井IC～厚木IC間）：101,300台→104,100台[3%増]
（横浜町田IC～海老名JCT間）：137,900台→134,400台[3%減]

①,②,③,④,⑤ 圏央道

①青梅 IC～入間 IC ※1

②相模原愛川 IC～高尾山 IC ※2

③寒川北 IC～海老名JCT

④寒川南 IC～寒川北 IC ※1

⑤茅ヶ崎中央 IC～藤沢IC ※1
（新湘南バイパス）

⑪,⑫ 関越自動車道 ※1

⑪鶴ヶ島 IC～鶴ヶ島JCT
（圏央道外側）

⑫鶴ヶ島JCT～川越 IC
（圏央道内側）

⑨,⑩ 中央自動車道 ※1

⑨相模湖東IC～八王子JCT
（圏央道外側）

⑩八王子JCT～八王子IC
（圏央道内側）

⑥ 新湘南バイパス ※1

⑥茅ヶ崎西IC～茅ヶ崎海岸IC
（圏央道外側）

⑦,⑧ 東名高速道路 ※1

⑦秦野中井 IC～厚木 IC
（圏央道外側）

⑧横浜町田 IC～海老名JCT
（圏央道内側）

※1 出典：NEXCOデータ
開通前：平成26年3月10日（月）～
4月9日（水）の日交通量の平均値
開通後：平成27年3月9日（月）～
4月8日（水）の日交通量の平均値
※2 出典：NEXCOデータ
開通前：平成27年3月1日（日）～
3月7日（土）の日交通量の平均値
開通後：平成27年3月9日（月）～
4月8日（水）の日交通量の平均値

（参考①）寒川北IC～海老名JCT　開通後の交通状況（一般道）

● **開通区間に並行する国道129号の戸田、県道相模原茅ヶ崎線の東河内で交通量および渋滞が減少しており、開通区間への転換が図られている。**

国道１２９号 戸田：交通量44,300台→39,200台[12%減]
県道相模原茅ヶ崎線 東河内：交通量14,500台→12,300台[15%減]

● **国道1号の城南および県道相模原茅ヶ崎線の柳島で交通量が増加。**

国道１号 城南：43,500台→47,100台[8%増]
県道相模原茅ヶ崎線 柳島：13,000台→15,800台[22%増]

■今回開通区間の位置図

出典：国土交通省 交通量調査データ
開通前：平成27年1月29日（木）の日交通量
開通後：平成27年3月24日（火）の日交通量

圏央道について

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）とは

首都圏3環状道路を形成し、首都圏の慢性的な渋滞の緩和・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路で、昭和60年に一部事業化後、順次開通し、現在までに約220kmが開通しています。

＜圏央道延伸の経緯＞